

令和3年11月13日

東京 憲法を起草する会
第二回 議事録

書記: 本田

今回の憲法を起草する会は、定員90名を超える参加者となりました。

15:30 - おやじさん講話

おやじさんよりご挨拶

先週土曜日、熊野飛鳥むすびの里にて、3周年記念行事を執り行うことができました。様々な方にご協力およびご参列いただきましたことを、この場を借りてお礼を申し上げます。

憲法起草の会では、参加者の方から様々な意見を発していただき、衆議で様々なことを考え、決め、実際に実行していきたいと考えています。

近い未来、社会的な制限力がかかっても、タフに持ちこたえる仕組みを作っていきたいと思います。既にそのような活動をされている方がいましたら、その活動内容などについて、今後この場でお伝えいただきたいと思っています。

15:30～16:00 参加者間での情報共有

笠間さんより情報共有

※笠間様からの情報共有の全体については「別紙資料」ご参照ください。

国家の強制力と国民の管理が働いている日本の現状の中で、荒谷さんの仰ることと、自らの周囲や仲間の経験が重なる部分が多くあり、感銘を受け、今年6月にむすびの里の仲間となった。

これまでの自身や周囲の経験を通じて、身体的な暴力はないものの、国家の強制力を用いた管理が始まっていることを実感。

司法の世界において、懲罰的訴訟において「差別」という言葉が出ると、日本人は自動的に罪となる仕組みができています。また、弁護士会においても、少数の人権を擁護することを公言しているが、その少数に日本人は含まれず、拉致被害者は含まれない。

多数の裁判でわかったこと

法律と版權は国家の強制力を利用した管理システムと言え、合法的に非道な追い込みが可能とされている。「差別主義者には人権はない」というプロパガンダが起き、法的に問題はなくとも、ひどい人権侵害が起きている。

メディアとの結託

懲戒請求するような人間は何をされても自業自得である、というようなネガティブキャンペーンにより、そのような裁判が正当化されている現状。司法だけでなく、司法に至る教育、メディア、広告代理店が一体となって固定した考えを刷り込んでいるのではないだろうか。

司法という素人の目には届かない世界の中で、法的強制力という国家権力を用いた日本人の弾圧が進んでいる。現在は司法の限られた世界で起きているが、今後広く展開されていくのではないかと懸念。

むすびの里との出会い

SNSでたまたま親父さんの演舞の動画を見て、「むすびの里」に出会う。

慣習法の重要性、衆議での合議、共同体の復活、伝統の維持、天皇陛下の存在、というお話に共感し、さらに、「日本では歴史的に革命が起きていない。だからこそ、国民運動が起きているときは疑うことが必要。」という言葉に感銘を受ける。

日本人が幸せに暮らせる法があるべきで、現在のような法に触れなければ何をしても構わないという現状は異常ではないだろうか。今、平和に生活できている日本人やこれから生まれてくる日本人には、私や私の周囲が経験してきたこれまでの失敗を糧にしてほしく、情報共有を行なっている。

いかにしてむすびの里のような在り方や、憲法を起草する会の考え方を今の社会の中に作るか。個々が意識していくことで、社会変革は必ず起きると信じています。

おやじさんより

現在の日本では、伝統的な秩序に戻そうという考えを公にし、実行の兆しが見えると潰されてしまう仕組みの存在についてお話いただいた。

NHKでの子供向け番組においても、世界経済フォーラムで推進しているグレートリセットに関する教育が始まっている。子供向けにグレートリセットについてわかりやすく説明し、これまでの常識を全てキャンセルし、新しいものの見方で世界を作り直すことを正として解説。伝統的な秩序に戻そうという思想の持ち主は前時代という悪の存在、不正解として扱われている。

占領下の時代にも、日本の伝統文化は間違っている、という扇動がメディアを通じて行われていたが、まさに昨今、同じことを、更に力を入れて行われているように感じる。

昨年、むすびの里にて自衛官合宿を行った際、「危険人物が自衛官に教育している」と共同通信社の記者が記事を書き、地方新聞が内容を吟味せず、そのまま全国に発信し、拡散された。

このような仕組みは占領体制下のニュース配信の全く変わっておらず、まずは、そのような現状の社会の仕組みをしっかりと認識することは重要である。

参加者から質問・コメント

共同体の輪を広げることも重要だが、外国勢力から攻撃が入っているということだと認識しているので、その防衛も必要だと感じます。

16:00～17:00 親父さんからの提言

本会の趣旨

「私たち一人一人が日本創成の当事者として、考え行動する」ことを趣旨に据えている。人に依存することを出来るだけ避け、自分がやるということを実践すべきだと考えている。

日本や日本人は本来、美しく豊かであるはずだが、今日その美しさや豊かさを感じられない。それをどうやって取り戻していくか、自分の問題として戦っていきたい。

現在の社会に露呈する問題・課題は構造的の問題である。西洋的な成文法は、幕末以降の外交のために作られたものだが、それ以前の日本は、外来法の概念がなくても、美しく豊かに発展した国であった。現行憲法の改憲ではなく、本来あるべき日本社会とその規範について考えたい。

憲法9条の改憲においても、憲法には前文が存在し、前文の決意があったからこそ、憲法9条も成立するプロセスを経た為、9条だけを改変しても理屈が合わない。

また、憲法99条には、国家公務員はこの憲法を遵守する必要がある、改変することができない旨が記載されている。裏返すと、国民はその義務を負っていないため、大いに議論する権利を持っている。一般国民こそ、この憲法について検討しうる唯一の存在である。

日本における天皇の立ち位置

現行憲法では天皇は憲法以下であるということを言っている。一方で、日本国の歴史は、神武天皇の建国宣言によって大和という国が成り立ち、その延長で現代まで続いている。日本のしらす国という歴史が断ち切れた史実ははなく、大化の改新であっても、推古天皇をつけ、天皇の権威は崩れていないし、どの時代にあっても、政治的な地位・軍権の最高位は、征夷大將軍などを含め、全て天皇の認証がないとつけなかった。

現行憲法において、その立ち位置が翻されることとなった。

日本創成の理と当事者としての意識

日本では元来、「万物万象の起源は一元である＝一体である」という理解から全ての思想が始まる。宇宙にある全てのものはどれを取っても無関係でない、という発想である。

更に、一体というのは空間だけでなく、時間的な概念も含む。皆さんの存在は宇宙全体の歴史、日本という国の中の一コマであるという考えである。

一方で、今の個人主義はどちらかというと無関係、という立場をとる。日本史が選択科目となるように、自分たちの歴史は知らなくても良い、過去と縁を切るという立場をとる。時間的な一体も断絶するため、過去と縁を切り、未来とも縁を切る。

日本的な考え方では、空間的にも全く赤の他人で、自分の存在とは何にも関係がない、という立場に立たない。本日も何かしらのご縁があって、顔をあわせることになった、という理解を私はしている。

全体の中の一人であると考え、必ず誰にでも「役」がある。その当事者になろう、と決意が必要で、傍観者ではいけない。

啓蒙教育においては、勉強するときは第三者のポジションにとって社会を達観して学ぶ。そこに自分が入っているという強い意識を持たないような教育をする。教育の段階で当事者としての意識が希薄になる。

役を果たすということ(使命とは)

使命というのは「ミコトにツカえる」と書く。ミコトというのは物質的自己以外のものを指す。生命の生は物質的なもの、命はそれ以外のもの、すなわち、エネルギー、霊、魂。エネルギーは、物質がなくなっても残るものである。(エネルギー保存の法則)

物質主義の今日、人間を物質としてのみ認識し、生命・安全・財産を大事としている。ミコトはどうかというと、それは何も保証されていない。そのため、魂としての尊厳を失い、ストレスになり、苦しくなる。

ご先祖様のエネルギーが再生されていく、という仕組みの中で、ミコトに使えるということは、一番最初からあるエネルギーに従って自分の生命をフル活用する、という意味合いである。

当事者になるために

まずは日本を体験することから始まる。現代では日本的なものを排除してしまっているため、日本を体験する機会が少なくなっている。

文化こそ、秩序であり、ルールである。とやかく言わなくても当たり前になっているものを文化という。その文化を体得し、そして、当事者として行う。日本を作っていくという使命を果たすために、体得したことを実践しないといけない。

「農」

むすびの里では、「当事者になる」という体験において、農を行なっている。(産業ではない)

今日、日本の田舎は、高齢者が増え、若者が減ったため、田んぼが作れなくなっている。現在、私は、休耕田を耕してお米を作っている。販売するためではなく、ご先祖が作った田んぼを復活させるために行なっている。実際に体験しながらお米を作ることで、日本の文化を体得している。

先祖の皆様が水路を作り、山を崩して平地にした田んぼがあるから、今お米ができる。先祖がそれをしてくれたことが本当にありがたいことだと実感する。

「学」

祖先の思いと行跡を実践する。知識で止めず、実践することで、初めて理解できる。

「学」として、まず神事を行っている。神ながらの道、すなわち「神様とともに生きていく」という生活を日本人はしていた。あらゆるものにエネルギーが宿っているということを実感的に分かっていたからこそ、大きな木や岩などに畏敬の念を払う、自然信仰があった。

神事は神と暮らしているという実感を得る機会。日本における祭りの意味は、神人合一、神様と一体になる。西洋の宗教とは異なり、崇めて従属するではない。

祖先と一体になる。自分の祖先が何をしてきたのかをしっかりと考え、自分が何をすべきか理解し、実践する。神様や祖先の意志を組み引き継ぐことで、安心させる。

禊も、神様にお願いをするのではなく、自分で自分を禊いでいく、本来の自分に戻していく、というものである。自分自身でそれを体験することでそれがどういうものなのか理解できる。

現在道場を作っているが、山を買い、木を伐採し、木の皮を剥がし、製材し、というところから、実際に行い、学びながら作っている。

「武」

日本における武は、マーシャルアーツとは違う。

日本では、先ほども話したように、和する(=万物万象の起源は一元である=一体である、)ということが根本精神である。一方で、必ず、乱れることがある。天災などもズレをリカバーする作用として自然が起こすもの。

人間の社会も同様に、一旦は安定した社会を作り上げても、必ず歪みが生じてしまう。その際は見直して、もう一度作り直すことが必要。これも和するためのものであり、それを荒魂と呼ぶ。

日本の武には活人剣というものがあるが、相手を直して、自分たちの中にまた入れてあげる、という概念であり、和する考えに沿っている。

世界的禍津霊の状態を直霊に戻すには、荒御魂が必要であると考え、「武」を実践している。

日本人の精神

大楠公「七生報国(滅敵)」

大事なことを成し遂げるために、七回死んで、生まれ変わって、やり遂げる。

身体は死んでも、魂は死なない、という考えに立っているところから出てくる言葉。

大丈夫(ますらお)

大楠公が申し上げた「私自身が一人生きていけば、必ず後醍醐天皇の意志は達成されます」という気概を大丈夫(ますらお)という。大伴家持の「海ゆかば」や山本鉄舟の逸話からも大丈夫の精神が受け取れる。三島由紀夫も「少数であることや有効性は問わず、やらなければいけないから、やるんだ」という精神で活動していた。

進む新世界秩序(New World Order)について

オーストラリアにて、ワクチン未接種者を収容する施設の建設が進んでいる。電気柵が張り巡らされた収容所のような施設である。

管理するためには、集団化されると厄介なため、分断化が必要である。新しい生活様式とは管理しやすい方式。実際に、ワクチンを打った打たないという議論は人々の分断化を生んでいる。

今後はSNSなどもキーワード単位で排除されるようになり、世界レベルでの情報検閲が進む。

現在の日本を考えてみても、憲法上非常事態でないからできない、ということで、過去には様々なことができなかったが、コロナ禍においてはやっている。(飲食店の営業制限や罰則、歯医者によるワクチン投与、など)今後、各国の憲法には意味がなくなり、新世界秩序の下に敷かれ、憲法は地域を管理するためのものとなるだろう。

今できる具体的な行動

そんな今だからこそ、

- ・相互信頼や親和を育む
- ・独自の情報共有の仕組み
- ・実力行使された場合の抵抗手段 を考え、実行しないといけない。

グローバリゼーションから自立した共同体を自分たちの周りで早く作る。会社でも趣味や飲み仲間でも良い。(会社の中でもワクチンを打たない人たちが孤立しているはず)

そして、その共同体間でのむすびをつくる。

理想的にはあらゆるサービスがシャットダウンされても自前で生きていけるよう、衣食住やエネルギーの基盤を持つ。共同体間のなかで、それぞれの専門分野の中で、お互いに提供しあって、全体として必要なものが手に入るような仕組みができると良い。また、既存のシステムに依存しない情報共有方法の構築も重要。

楽観的に考えると、このようなものをつくる良い機会が訪れたと考えている。この機会に当事者意識を持って実行していく。グループ間で相互扶助していく形が、そのまま国の秩序になっていくのではないかと考えている。先にルールを作ってその法的権力の下に社会を作るのではなく、自分たちが作っていく共同体の中で生まれた秩序をルール化していくのが日本らしいのではないか。

西洋的な法秩序は強制力を持って初めて機能するため、強制力を持たない有事は無法地帯となる。

一方で、日本での大震災では、警察などが放射能地帯に介入できずとも、自然に、協力しあって、秩序だって、助け合うことができていた。日本人は文化的にそのような行動をとれる教育を受けているから、もっと日本人のことを信じて良いと思う。

また、ルールは事情事情に応じて判断できることが重要であり、神武天皇も建国の詔にて同様のことをおっしゃった。

我々一人一人が神の子だから、自分で自分を律し、正しく維持していくことができる、という思想にたち、自分たちの力で自分たちの社会は正しく維持できる、という確信を取り戻したい。

参加者からの質問:なぜオーストラリアはそのような強制的な管理体制が取られたのか。

回答:想定ではあるが、アングロサクソン系の国(アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド)が管理体制を強く敷かれている傾向がある。オーストラリア軍やカナダ軍の忠誠はイギリス女王であり、世界的財閥もそこから生じているため、そのような思想が蔓延しているのではないのでしょうか。

17:05 ~ 17:15 休憩

17:15 ~ 17:50 衆議

グループを作り、30分間議論を行う。

17:50 ~ 発表

グループ1(発表者:石塚様)

同調圧力に負けないために、当事者意識を持って行動をしよう、という話が出来ました。

現代は、個を重視する仕組みとなってしまうが、共同体を家族と置き換えて、家族のために何ができるのか考えるようなルールづくりができるといいのではないだろうか。そのために、古い慣習を見直し、日本人に沿ったあるべき姿を見直したい。

最も重要なことは、この集まりを然り、様々なコミュニティの中で、このような話を広げ、認識を広めていくことではないかと思う。

グループ2(発表者:須川様)

自分たちが思っていることをどう広めていけばいいのか、あまり話しすぎると批判や非難にあう経験などを共有した。しかし一方で、話してみると意外と同じようなことを思っている人がいることがあるという経験も共有しあえた。

また、このようなコミュニティを広げる上で、信頼関係を作っていくことも重要だという話もした。

考えが違う人がいても、そこで壁を作るのではなく、ゆるくつながりを維持することも必要である。どのようにこのような考えを広めていくか、という観点でグループで議論ができた。

グループ3(発表者:大石様)

実践していくためのアイデアについて、それぞれ発表した。

この会を盛り上げていくために、もっと会う機会やコミュニケーションの機会を増やす必要があり、この会に限らず違う会でも繋がる方法もあるのではないかと思う。

また、顔をあわせるということが重要という話が出た。例えば、体験農業をやっている方などに協力してもらい、人を募集し、一緒に参加することで、顔をあわせる機会も増えるし、実践する機会も持てる。行事を設定する、というアイデア。

自分の周りに声をかけていくのも良い。一人が10人にでも声をかけ、それを広めていく。

グループ4(発表者:えのきその様)

個々の活動には限界があるので、つながりを持ちたいという提案が出た。情報共有においては、GAFAなどのメジャーなシステムではなく、そうでないシステムを使っていくことも必要ではないかと検討があった。各地域に支部があれば活動しやすいですね、という話も出た。

グループ5(発表者:原綾子様)

様々な立場や経緯を持った人々が集まっていることが有難い機会だと痛感した。

ワクチンを打っていない人は生きづらい社会になるのか、という話もし、打っていない人が職場でどのような対応をされているのか、そのような環境でどのように職務を全うしているのか、という話をした。そういった実情や経験談を共有することで、今後の議論に役立てていきたい。

グループ6(発表者:福島様)

日本的雰囲気の話となりました。国防に携わる方や至誠館で通われていた方、Youtubeを見ていらした方、お医者様などの多様な方々の集まりで、ざっくばらんに雑談ができました。

グループ7(発表者:森様)

具体的にどのような取り組みをしていけばいいのか、という点で、大きなことから考えても難しいので、まずは身近な人たちとつながりを持っていくことが必要ではないか、という結論となりました。

グループ8(発表者:黒木様)

自己紹介と雑談がメインとなりました。それぞれの境遇やその境遇の中で、なんで日本人はこうなんだろう、という疑問を持ち合う形となりました。この疑問から今後、思考を深めていければと思います。

グループ9(発表者:カグラ様)

このような場やセミナー、勉強会にいらしている方々は優しい方が多いように感じる。グローバリゼーションやNWOに抵抗するという事は、自分以外の周りの誰かを守りたいという気持ちから来ているのではないだろうか。憲法を起草する会という重たいテーマに感じるが、その下に優しい想いを忘れずにいることが必要ではないかと感じた。

例えば仮に9条が改憲され、他国と戦うことになったとしても、相手がごめんなさい、間違っていました、という矛を収めたら許してあげましょう、というような条文も入れたほうがいいのか、そのほうが国民はわかりやすいのではないか、と思います。

須川様:

優しさつながりで発言させていただきますと、発表者の方に背を向けて聞くのではなく、振り返っておへそを向けて聞くことで、発表者の方も話しやすいのではと思います。

親父さん:

皆さん、ありがとうございます。優しさやおへそ向けて話を聞く、というのを憲法に入れられるといいですね。この会には本当に豊かな人材、様々な場所で活躍されている方が集まっているので、ここに集まっている方々の想いや考えを集結できたら、かなりのことができると思います。これを実践していくことで、国づくりの基盤ができるのではないのでしょうか。色々な才を持っている人々が集まり、助けあい、実際にどうやっていくか、というのが本来のルールの内蔵だと考えています。決して統制や管理ではないはずです。

例えば、今回グループになった9人の才で実際にどうやるのか、というのを考えていくことが始まるでしょう。

特殊部隊の場合、選抜でチームが編成されるため、お互いのことを知らない状態から始まります。そのため、最初にチームビルディングというものを行います。チームをこさえることが最初のステップとなり、そのチームがどこまで家族的になるのか、ということが重要です。それが出来れば、スキルやタクティクスはチームの中で自然と浸透していきます。

一気に国でまとまりを作ろうとするとどうしても強制的なやり方になってしまいますが、それはチームではありません。チームとして関係性を構築していくのは9人ほどが限界です。その規模でチームを作っていく、血肉を分けた家族のような関係になれると最高ですね。

顔を合わせることが重要とありましたが、顔を合わせることが本当に大切だと思います。そのような機会を作っていきたいと思います。今日お会いした人々とも自分たちで顔合わせしたり、集まったり、一日一緒に仕事したり、しても良いと思います。一日一緒に仕事をすれば、相手の人間性など理解するとても良い機会となります。

憲法起草の会に参加した方は、投稿や共有などができるようなウェブサイトも作りたと思います。それが最初の情報共有のツールになると良いと思います。

やる前に払う努力は勿体無いと思っているので、プランを立ててやっていくというより、やり始めてから、これは良い悪いということをジャッジしながらやったほうがエネルギーは無駄にならないでしょう。今、何か活動をしている方、ここに来てやり始めた、やろう思っていること、などがあれば今後も共有いただきたい。

次回、皆さんの前で話したい方がいれば、荒谷もしくは勝俣に連絡ください。荒谷の連絡先はむすびの里のウェブサイトに掲載しています。

また次回以降、衆議の時間をより割いていきたいので、衆議での議題などがあればお持ち込みいただければと思います。

むすびの里 師霊武道場増築のご依頼(細川さんより)

この度、むすびの里 師霊武道場が手狭になり、増築することとなりました。

熊野の山で伐採し、製材を行い、地元の方々や大工さんと協力しながら手作りで進めておりますが、増築にあたり建築資金のおこころざしをお願いできればと思っております。

また力が有り余っている方がいましたら、里にお越しいただき、お手伝いいただければと思います。

むすびの里のホームページからお問い合わせいただくか、お電話いただければと思います。

親父さんより

以前、至誠館にいる頃に、憲法起草の会を行った時に「お金のいらぬ社会」というのがテーマとなりました。

現在ウッドショックによって、木材が2~3倍となり、木材の民家を建てられなくなっています。一方で、このように自分たちで木を切り、製材していくと、ウッドショックなどは一切関係がありません。そのような既存のお金の仕組みを必要としない実例を増やしていきたい思いがあります。手間暇はかかりますが、お金をかけずに様々なことを実現していく方法はあるのです。

次回、憲法を起草する会は、12月11日となります。また次回お会いできることを楽しみにしています。